

平成 25 年度
第 2 回江戸川区子ども・子育て応援会議
議 事 要 旨

日 時 平成 26 年 2 月 10 日（月） 午前 10 時から 12 時まで

場 所 グリーンパレス 千歳

【議事次第】

- 1 開 会
- 2 議 事
 - (1)江戸川区の子ども人口や子育て施設の現況について
 - (2)「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」集計結果について
- 3 その他
- 4 閉 会

【配布資料】

平成 25 年度 第 2 回子ども・子育て応援会議 次第

資料 1 子どもに関する基礎データ

資料 2 江戸川区の子育て家庭像

資料 3 ニーズ調査結果報告（概要）

資料 4 「江戸川区子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」集計結果(速報)

資料 5 子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール

えどがわ 子育てガイド

平成 25 年度第 2 回江戸川区子ども・子育て応援会議 出欠状況

氏 名	所属機関・役職名	出 欠
三輪 建二	お茶の水女子大学教授 江戸川総合人生大学子ども・子育て応援学科学科長	出 席
田澤 茂	江戸川区私立幼稚園協会会長	出 席
秋山 秀阿	江戸川区認可私立保育園園長会会長	出 席
清澤 好美	江戸川区立小学校長会副会長	出 席
蓮沼 千秋	江戸川区立中学校長会会長	出 席
半田 直子	保育ママの会元会長	出 席
澤井 廣喜	江戸川区認証保育所連絡会共同代表	出 席
上松 憲一	共育プラザ館長会幹事・共育プラザ南小岩館長	出 席
田中 稔家	江戸川区青少年育成地区委員長会会長	出 席
宮本 道子	江戸川区青少年委員会会長	出 席
山本 又三	青少年育成アドバイザー	出 席
大門 美子	江戸川区私立幼稚園協会 PTA 連合会会長	出 席
池田 絵里	江戸川区認可私立保育園保護者連絡協議会理事長	出 席
宇田川公一	江戸川区立小学校 PTA 連合協議会会長	欠 席
関口 光治	江戸川区立中学校 PTA 連合協議会会長	出 席
大澤 孝	江戸川区立幼稚園 PTA 連合会会長	出 席
神戸 裕子	江戸川区立保育園保護者代表代理	代理出席
寺原 純子	保育ママ利用者代表	出 席
本田 由香	認証保育所利用者代表	出 席
平田 善信	東京商工会議所江戸川支部会長	欠 席
宮城富美子	連合江戸川地区協議会	出 席
石部さよ子	民生・児童委員協議会 小松川第二地区副会長	出 席
千葉 友幸	江戸川区医師会理事	欠 席
中島 信	江戸川区歯科医師会専務理事	出 席
岩楯 松江	公募区民	出 席
仁志川明美	公募区民	欠 席
窪田 龍一	区議会議員	出 席
大西 洋平	区議会議員	出 席
松尾 広澄	健康部長	出 席
柴田 靖弘	教育推進課長	出 席
高原 伸文	子ども家庭部長	出 席

委員長

副委員長

議事要旨

1 開会

2 議事

(三輪委員長) ただ今から第2回江戸川区子ども・子育て応援会議を開催させていただきます。この子ども・子育て応援会議は、幅広く地域における子育て支援について議論することであり、特に今年度・来年度については、平成27年4月に予定されている子ども・子育て支援新制度移行に向けて集中的に議論をしていくこととなっています。前回の会議では、事業計画策定の基礎データとなる「ニーズ調査」の内容についてご意見をいただきました。本日の会議では、就学前児童の人口動態や施設の現状をはじめ、ニーズ調査結果を通して、江戸川区の子育て世帯の現状について意見交換を行い、来年度の事業計画策定に向けたステップとしてまいりたいと考えています。なお、議事の進行上、(1)江戸川区の子ども人口や子育て施設の現況、(2)「子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査」集計結果の2点を合わせて事務局より説明していただきます。事務局よろしくをお願いします。

(事務局) それでは、事務局より資料1から資料4を使用して、江戸川区の子どもや子育ての状況について説明をいたします。

～ 事務局より説明 ～

(三輪委員長) ありがとうございます。報告を聞いていて大きく5つ位の論点があったように思います。主に資料3を見ながらがよいと思いますが、1つ目は「地域特性」で、江戸川区といっても地域による特性があり、旧市街地の小岩と湾岸エリアの葛西南では、家族のかたちや暮らし方が異なるということが示されています。これは資料3の1ページ目で説明があったことです。2つ目は「母親の就労スタイルの変化」で、資料3でいうと2～6ページになります。フルタイムが増えているが、専業主婦志向も増えている二極化ともいえる現象についてどう受け止めるかということや育児休業取得の有無についても意見交換できると思います。3つ目は「高い教育・保育ニーズ」で、7～11ページあたりになります。ここでは認定こども園を中心に高い教育・保育ニーズについて意見交換できればと思います。4つ目は「孤立するひとり親」で、ひとり親については12～14ページに示されています。「つき合いがあまりない」「気軽に相談できる人がいない」「子育てをつらいと感じることが多い」といった声をどう受け止めればよいか考えていきたいと思います。5つ目は「子育て環境」で15～17ページを中心に意見交換したいと思います。江戸川区の子育て環境に対する評価は概ね高く、今後も9割の方が「江戸川区で子育てをしていきたい」と回答していました。しかし、地域のつながりのデータがあまり高くないなど課題もあります。これから1つ目の論点から順に、委員同士の意見交換を中心にそれぞれの委員のお立場でご発言い

ただきたいと思います。ではまず1つ目の論点の「地域特性」についてはいかがでしょうか。

～ 意見なし～

特に意見がないということは、地域特性についてはそういう現実認識だということでしょうか。

(一 同) 賛同

(三輪委員長) 2つ目の論点の「母親の就労スタイルの変化」についてはいかがですか。

(澤井委員) 就労の形態についての議論ですが、それに関連して潜在的な待機児童については委員の皆様はどうお考えでしょうか。

(寺原委員) 利用者の方の声を聞くと、保育園は仕事をしていないと入れないという制度ですが、反対に保育園に入れないから仕事ができないという状況になっているので、潜在的な待機児童はこの数字に表れないほど多くいると思います。

(三輪委員長) データには表れていない問題もあるということでご意見がありました。他にはどうですか。

(山本委員) すくすくスクールやファミリーサポートの利用状況から見て、資料3の表2-2の5歳の時点で専業主婦が増加し、フルタイムが減るというのは逆じゃないかなと思いました。

(大門委員) 私も同じ疑問を持ちましたが、小学校に入って落ち着いてから働くという方もいると思うので、6歳以降就労が急激に伸びることもあると思います。

(三輪委員長) 続いて3つ目の「高い教育・保育ニーズ」について、ここでは様々な論点がありますが、ここでは認定こども園に論点を絞って意見交換をしたいと思いますがいかがですか。

(田澤委員) 認定こども園については国の会議で基準等について議論されているが、良質な幼児教育を行うために設置基準は高い水準を遵守していただきたいと思います。

(澤井委員) 設置基準については、都市部で広い園庭が確保できるかなどの課題があります。また、幼稚園教育要領と保育指針の内容がほぼ同じになりました。小学校に上がった時に「小1の壁」が取れるような幼児教育が必要になってくると思うので、家庭と保育園、幼稚園でそういった幼児教育を行っていくべきだと思います。

(池田委員) 認定こども園について何となくしかわからないし、認定こども園に入れようと思った時に、入れるための方法やどこがよいといったような情報がないんじゃないかなという気がしました。

(三輪委員長) 事務局に簡単に認定こども園の説明をお願いしてよろしいですか。

(事務局) 認定こども園については4つのタイプがあります。1つ目は幼稚園をベースに保育時間を長めにとるタイプ、2つ目は認可保育園をベースに保育に欠けない子も入れて幼児教育的な要素を取り入れたタイプ、3つ目は幼保連携型といって認可保育園と認可幼稚園の基準をともに満たしているタイプ、4つ

目は地方裁量型といって、東京都の例を挙げると認証保育所などがベースとなって幼児教育的な要素を取り入れているタイプになります。

(大門委員) ニーズ調査に回答した方は、認定こども園の内容についてわからずに答えている方もいると思うので、認定こども園というものがこういうものだという情報があればグラフも変わってくると思います。また、先ほどの説明を聞いてもよくわからないので、こういうことをやっていますといったような具体的な園の説明でないといけない方もいると思います。

(澤井委員) 一度認定こども園の特徴等について学習会をしたらどうでしょうか。

(池田委員) 今は保育園、幼稚園、認定こども園といったように分類されているだけで分かりにくいのだと思いました。保護者が園を選ぶときは子どもにとってどこがよいのかを考えて選ぶと思うので、どこの園がどういう理念なのかといったように、選びやすいメリット・デメリットが前面に出てくればよいと思いました。

(半田委員) ここ数年、保育の形態が複雑化していると思うので、実際に江戸川区で認定こども園をやっている方のお話を聞けたらいいなと思います。

(宮本委員) 認定こども園は預かり保育や幼児教育を行っていくというお話でしたが、この辺は待機児童解消ということも含んでいるということなのでしょう。

(澤井委員) 私は解消につながると思います。

(田澤委員) 現在幼稚園では預かり保育を9割以上で行っています。フルタイムで働いている方やパートで働いている方も利用しているので、待機児童解消に貢献していると思います。また、新制度になっても既存の幼稚園のままで残れるという制度があるので、このまま預かり保育を拡充しながら運営していく幼稚園が多いんじゃないかなと思います。それと公定価格など、決まっていない部分がたくさんあるのでそれが決まらないと幼稚園が認定こども園に移行するか決められない状況です。

(岩橋委員) 地域差はあるかもしれませんが、すすくすくスクールやファミリーサポート事業は積極的に利用されているし、ボランティアの方たちも積極的に参加していただいていると思います。ただ、すすくすくスクールについては、高学年になると利用が少なくなることが課題になっています。

(三輪委員長) 続いて4つ目の「孤立するひとり親」について意見はありますか。

(半田委員) 保育ママは赤ちゃんや保護者の方と非常に密にかかわることが多いです。ひとり親のお子さんや心が病んでいる方のお子さんを預かることもありますが、毎日関わることで心を開いてくれて色々な相談をしてくれることも多いです。そういった意味で子どもを預かるだけでなく、保護者の相談にのるなど保護者のケアもできるよい制度だと思います。

(寺原委員) 保育ママのことをみなさん勘違いされていて、「保育ママは子どもに1対2で接しているのだから世界が狭いから駄目だ」とかおっしゃられる方がいるが、保育ママは皆さんで活動されていて、毎日出かけないことはないほどいろいろな所へ連れて行ってきて、出前保育といわれるように地域の公園で保育

ママ同士や地域の方との交流もあるので、とてもよい制度だと思います。保育ママ制度について間違った知識を持っている方がすごくいらっしゃるのも、もっと宣伝された方がいいと思います。

(高 原 委 員) 参考ですが本日付の広報えどがわでも保育ママについて一面で取り上げております。

(三 輪 委 員 長) 委員の皆様もこれを機会にいろいろ広めていただければと思います。

(大 西 委 員) 保育ママ制度については先駆的に江戸川区が取り組み、他の自治体からも評価いただいているので、私達ももっと発信していかなければと思っています。また、孤立するひとり親についてですが、そういった方が地域コミュニティに入りやすくするために何かよい方法はあるか、皆様の知恵をお借りしたいと思います。

(半 田 委 員) 地域のコミュニティに参加するよい方法についてですが、保育ママは地域の方にも気軽に声をかけますし、一緒に遊んだりしているので、若い方も安心して一緒に子育てができると思います。

(窪 田 委 員) 孤立するひとり親ということが出ましたが、祖父母が近くにいて子育てをしている人は守られていると思いますが、夫婦だけで子育てされている方は大変だなと思います。そういった中でサービスを受けている方、受けていない方も含め、本当に保育が必要なのかなという方もいるので、現時点での公平性について江戸川区としてのあり方を考えていかななくてはいけないと感じています。また、子育てに専念したいという方が増えていくとよいと思うので、そのためには1年、2年と子育てに専念できるような職場の環境等が必要になると思います。

(三 輪 委 員 長) ひとり親だけでなく、核家族化により相談できる祖父母がいないというのも大きな特徴かもしれません。また、働く方と子育てに専念したいという方の二極化に対応した支援のあり方という意見が出たと思います。では最後の5つ目の「子育て環境」について、また、これまで議論した中で区に対する評価や要望がありましたらお願いいたします。

(宮 城 委 員) お子さんを預かっている立場の方からいろいろなお話を伺ってきているので報告させていただきます。まず、区立と私立の職員や職員の働く環境の違いがあるということです。区の職員は削減されて人員が補充されないため若い方が育っていかないというのが現状ですので、よいものを継承していく期間が短くなってしまいます。いろいろな知識を若い人につないでいきたいと思ってもそういう補充がされないのが非常に困っています。また、箱モノの影響もありますが、詰め込みの保育は子どもにとってはつらいことだなと思います。子どもの立場に立って行政が動いていってくれたらいいと思います。

(半 田 委 員) 保育というと女性のイメージがあると思いますが、男性で保育に参加できる方も地域にたくさんいると思うので、そういった方を掘り起こしていけたらよいと思います。そういったことがこれから江戸川区の子育て支援計画を考えていくのに重要じゃないかなと思います。

- (三輪委員長) 思いつきですが、江戸川区の保育ママ制度が先駆的ならば、保育ママ・パパ制度というのもいいのではないかと思います。
- (大門委員) 環境のことで希望があるのですが、災害や犯罪などに対応し、安心・安全な環境にも力を入れてくれたらと思います。
- (秋山委員) 私立の保育園では子ども・子育ての相談や0歳児保育や延長保育、一時保育なども行っています。子育て環境については、各地域でやっていると思いますが、幼稚園、保育園で行事などを行う際に地域の方とのつながりを持ち、いろいろな方からお話を頂ける機会を作っていると思います。保育・教育サービスについては、いろいろと待機児解消に向けた対策を行っていますが、保護者の方への周知もまだまだ足りないところもあると思いますのでもっと宣伝していき、応援会議で皆様のご意見を伺って私達でもできることを行っていきたいと思います。
- (田中副委員長) 議論を聞いて一番始めに感じたことは、子どもを育てるのはまず親なんだということ、そして親がそれを考えなきゃいけないということです。今の親は施設に預けておくとしつけまでしてくれると考える方が非常に多いのです。そのような親をどう巻き込むかが保育園や幼稚園、すすくすくスクールなどのひとつの大きな役割だと思います。親同士のつながりをつくって自分でしつけるんだと考えてもらうことが基本だと思います。非常にありがたいなと思ったのは保育ママが公園で地域の方とお話ができるということです。そういったつながりを町会の中でどう活用していけばいいかということが重要だと思います。

3 その他

- (三輪委員長) では最後に次第3のその他について事務局お願いいたします。
- (事務局) 本日頂戴いたしましたご意見につきましては今後の事業計画策定などに活かしてまいりたいと思います。それでは、資料5「江戸川区子ども・子育て支援事業計画策定スケジュール」をご覧ください。今回お示したニーズ調査結果は、国が1月に作成したワークシート(市町村子ども・子育て支援事業計画における「量の見込み」の算出等のための手引き)に従って、江戸川区のデータを入力してまいります。こうして算出された教育・保育サービスの量の見込みを3月に東京都へ報告するとともに、来年度の子ども・子育て応援会議において需給バランスのギャップをどう解消していくかご議論いただくこととなります。来年度は4回の子ども・子育て応援会議の開催を予定しています。1回目は5月を目安に開催し、「量の見込み」と「各種基準条例案」をお示しする予定です。このほか、国の検討状況にもよりますが、事業者に対する補助金に相当する公定価格や利用者負担額の骨格などをお知らせできればとも考えています。第2回以降の会議では、事業計画案を中心に委員からご意見を頂戴していきたいと考えております。
- (三輪委員長) そろそろお時間も迫ってまいりました。他に何かございますか。

～ 意見なし ～

では最後に、事務局から何かありますか。

(事務局) 先ほどもお伝えさせていただきましたが、次回の会議は5月頃の開催を予定しております。国や東京都の進捗状況を見ながら、委員長と相談して日程をご案内させていただきたいと思います。お忙しい時期かと思いますが、よろしく願いいたします。

4 閉会

(三輪委員長) 特になければこれで会議を終わらせていただきたいと思います。長時間ありがとうございました。